

## スキー教室がありました

3学期が始まり2週間が過ぎました。休み明け、寒い季節ということもあり、子どもたちが学校生活にスムーズに戻れるか心配な点もありましたが、楽しく学校生活を過ごしているようで安心しました。

1月19日(火)には、5,6年生のスキー教室がありました。今回、団長として教頭先生が引率しました。

今年の冬は寒さが厳しく、天候が心配でしたが、当日は春のような穏やかな日和に恵まれ、子どもたちは楽しくスキーを楽しむことが出来ました。

心配した怪我などもなく(捻挫が1名)全員が楽しくスキーを楽しむことが出来ました。

毎年、付きそっている養教の先生の話では、例年、寒さからか「もうスキーは嫌だ」という子が何人かいるそうですが、今年はそのようなこともなく、全員が時間一杯スキーを楽しむことが出来たました。子どもたちにとって小学校生活の良い思い出になりました。

確かにスキー場は、真っ白なゲレンデ、流行の音楽が流れ、カラフルなスキーウェアに身を包んだスキーヤーの弾ける笑顔、まさにそこは別天地です。子どもたちにとって非日常的な空間で学ぶスキー教室は、楽しさだけでなく色彩的にも鮮明な思い出となり心に刻まれたことでしょう。

また当日は、富士見高原のレストランで食べるカレーライスが大好評で、普段は食の細かい子が何杯もおかわりして周りを驚かせたそうです。運動した後の食事は格別だったのでしよう。

※ スキー教室当日の様子が本校のホームページに映像で紹介されています。ご覧下さい。

3学期の学級役員が決まりましたので紹介します。

## 平成21年度 3学期 学級役員

学 級	会 長	副 会 長	書 記	代表委員
3年1組	平澤 由衣	功刀 大知 三村 美桜	上田 海斗 小室 玲衣	今村 洸太 青木 あや
3年2組	山本 彩乃	三國 愛斗 星野 流風	齊藤 晴飛 佐藤 文彦	酒井 南実 福士 楓
4年1組	山本 奏	浅川 豪 櫻田 鈴	本宮 康平 清水 美礼	老松 大河 石水 朱夕
4年2組	小田切 杏朱	竹田 航 守山 沙良	阿部 結衣 石橋 沙季	長田 翔哉 篠崎 唯香
5 年	佐藤 哲哉	今村 敦博 長田 空大	安達 龍杜 石橋 凌	上田 藍 長田 めい
6年1組	長田 秋穂	小林 優真 山本 浩平	秋本 栞里 中澤 明日翔	大久保 舞南 末木 亜実
6年2組	坂本 駿	三國 杜 長田 真実	落合 かいり 藤沢 翔太	齊藤 雄飛 小宮山 奈央

### かわいい子には旅をさせろ

この時期は、3月の卒業、4月からの新しい学校への入学と、別れと出会いの感情が心を覆い、私たちはいつになく感傷的になります。保護者の皆さん方の中には、卒業後、進学や就職で山梨県を離れるお子さんをお持ちの方もおいでになることなのでしょう。そんなとき、お子さんの身の安全を思い、次のような願いをお持ちでしょう。

#### ○わが子よ、困難に会うことなく、「幸せな人生」を歩んで欲しい。

わが子の幸せを願うこのような親の思いは、私にも良く分かります。ところが、この「幸せ」というものがくせ者なのです。例えば、周りが羨むような「幸せ」の状態にいる人が、案外、本人は「幸せ」と感じていない場合があります。私たちは、何を基準に「幸せ」を感じるのでしょうか。

- ・空腹に苦しんでいる人は、ご飯が食べられた時、幸せを感じます。
- ・受験勉強を強いられている人は、受験が終わり、好きなことが出来る時、幸せを感じます。
- ・病気になり高熱にうなされている人は、熱が下がり食事が摂れるようになった時、幸せを感じます。

このように考えると、私たちが「幸せ」を感じるのは、人それぞれ違い、その時のその人の受け取り方次第だ、ということが分かります。では、子どもたちは今の自分自身の生活環境を「幸せ」と感じているのでしょうか。今の日本は、不況だ、不景気だ、とは言っても、(衣食住から見たとき)

- ・着る物もなくボロをまとい、寒さに震えている人はいません。
- ・3度の食事にも事欠き、餓死するような人はいません。
- ・貧しくても、奨学金を受け、高等教育を受けることも可能です。
- ・将来〇〇になりたい、と考え、その夢の実現のために努力することも出来ます。

でも、わが国に住む子どもたち(大人もそうかもしれません)は、このようなことを当然と考え、特別に幸せなこと、とは考えていないでしょう。人が「幸せ」を感じ取るには「ある感性」が必要です。

実は、私たち人間は、失って初めてそのものの価値が分かる、というやっかいな心を持っています。「当たり前だ」「当然だ」と考えていたものが無くなることで、いかにそれが大切なものだったかが分かるのです。

温かな家庭、家族の笑顔、団欒の一時、そのようなものも、その真っ直中で生活しているときは、特別ありがたい、とは思いません。でも、それが失われた時、いかに大切なものだったかに気づかされます。ですから、親元を離れて子どもは知るので。

- ・お母さん(お父さん)の温かさ
- ・温かい家庭、家族のありがたさ
- ・黙っていてもご飯が用意される幸せ

そのように考えると、子どもは旅をすることで、家族の良さ、故郷(ふるさと)の良さを発見するのだといえます。旅には辛(つら)いことがあるかもしれません。危険もあり、時には命を落とすこともあります。でも、人は旅を通し、感性を磨き、人生の価値に目覚め、人として成長する生きものなのです。

現在のように交通機関が発達していない時代のことばです。当時、旅は命がけのことばでした。ですが、そのような状況の中で、あえて「かわいい子には旅をさせろ」と言ったことばに、古の賢者の深い智慧を知ることが出来ます。